

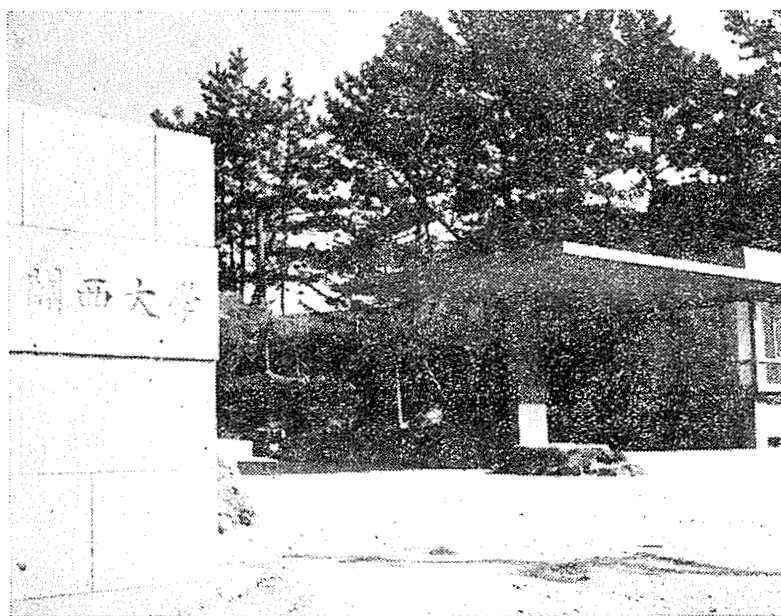
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, March 15th, 1952. —No. 247

關西大學學報

第 2 4 7 號

昭和 2 7 年 3 月



竣工の大學正門

昭和二十六年度を顧みて

宮 島 綱 男

昭和二十五、六年度は我が関西大学の歴史の中で最も多難であつたと言つても過言ではあるまい。尤も大正十、十一年度所謂新大学令によつて本学が専門学校から官立大学と同列に昇格した當時は組織の変更殊にその裏付けをなす資金の募集等の爲に極めて多端であつた。然しこの二年間はそれにも勝つて匆忙であつた。即ち終戦後我が国の諸制度が根本的の變革に遭つたが、その一事象として私立学校法といふものが制定されてその結果私立学校は財団法人によらず学校法人によつて設立されねばならなくなり、これに則つて昨年寄附行爲を改正して学校法人関西大学として昨年四月から出発した。この私立学校法なるものは勿論アメリカの制度が殆どそのまま輸入されたものでその長所は固り大であるとは言つても我が国情に適合せず、殊に過去数十年に亘つてやうやく確立された大学教育制度の長所が失はれ、更に節言すれば短所が若干残つてあるといふやうな次第で今後これには相當の改正を施す必要があると痛感するものである。

兎も角本学に於ては前記新法人組織の下、内容の充実とこれに必要な施設の整備とに關係者一同は全力を挙げ來つたのである。内容に就いては多く具体的變化の見るべきものはないけれども、然し乍らこゝに特筆したいと思ふのは文学部に東洋文学科の二科を加設したことである。本誌第二四〇号に於て国際精神の涵養を学生諸君に懇切したことがある如く今や我が国が

かれてゐる事情の下、西洋文化の研究並びにその吸収は固り必要であるが、更に銘肝すべきは我が国文化の基調をなすものは東洋文化であるといふことである。幸ひにも本学には東洋学者數名を擁してゐるのでこれら諸学者の指導協力を得て万難を排して右の二科を置いたのはこゝに見る所があつたのである。恰かも昨今世上多少の議論があるやうであるが高校に於ける漢文科云々の如きは吾人をもつてすれば問題にならないわけ合ひのものである。これは又時と場所とを變へて私見を述べる機会もあるであらう。他方東西學術研究所といふものを組織したことである。今日は尙未だ見るべきものはないが、然しながら將來はこの機關を發展させて東洋學と西洋學との比較研究、進んではその融和を計らうとする一大構想を持つてゐるものであつて東洋學のみを偏重して西洋學を等閑に附してゐないといふことはこれによつてもわかるであらう。

次に施設に就いては一昨年樹立した五ヶ年計画に従ひ本年はその第二年度として階段教室・研究室・大学ホールより成る一棟（鉄筋コンクリート建延四五〇坪）本館連接大教室六室二棟（鉄筋コンクリート建延四九〇坪）、正門及び門衛舎の完成を見、更に経・商學舎連接大教室二室一棟（鉄筋コンクリート建延二七〇坪）の工事が目下進められてゐる。

以上は本年度の事業の素描であるが、來年度の事業の前途は多事多難の道程であることは想像出来る。即ち内容的には學部特に大学院の充実、施設の面に於ては五ヶ年計画の第三年次として本館改築をはじめ多くの且つ大なる仕事が続いたつてゐる。本学の關係者の協力と大方の提携とが強く希求される。（本館理事長）

第二四七号 目 次

表紙写真……………八島教授撮影

昭和二十六年度を顧みて……………宮島 綱男（二）

東洋學の使命……………武内 義雄（三）

學内報……………（六）

英國王ジョージ六世崩御敬弔……………正門竣工……

……本館隣接教場工事進捗……………教授出張

校 友……………（六）

喜樂會……………千里山昭八會……………布施市支部會……

……辯護士會長當選

學 生……………（六）

イギリス人についての隨想……………矢口孝次郎（六）

趣味の頁——関大歌壇、関大俳壇……………（六）

海外彙報

ヴィクトル・ユゴーに寄せて……………T・M生（二〇）

ヴィクトル・ユゴーの日本文獻

——生誕百五十年に際して——天野敬太郎（二二）

編輯後記……………（二五）

東洋學の使命

武内義雄

本稿は昨年十月七日大学院講堂に於て開催せられた東洋文学科創設記念講演会に於ける武内義雄博士の講演原稿であります。この度同博士の御快諾を頂いて本誌を飾り得たことを茲に厚く謝するものであります。

この度関西大学において東洋文学科開設の記念講演が行はれまするに際し、不肖私が講演者の一人としてお招きにあつかりましたことは光榮至極に存じます。ともすれば東洋學が軽ぜられやうとする今日におきまして当大学に特に東洋文学科が開設せられましたことは東洋學に關係のある私どもに取つてはこの上もなくうれしいニュースであります。かく申しますと余り私事にわたる嫌もござりますが、私は大正四年から十二年まで大阪にゐましてその大半は吹田に居住いたしました、丁度現在の市役所前停留所附近に寓居いたしました関西大学がこゝに建てられた当初のことも存じて居りますが、それが三十年後の今日この様に發展して東洋文学科が開かれるやうに成りまするについては学校当局諸賢の並々ならぬ御努力の賜と尊敬しました慶賀申し上げたいと思ひます。私はまた大阪在住当時非常にお世話になつた親友を持つてゐます、それは当大学において東洋學を担当せられ、今度東洋文学科の開設についても非常にお骨折りになつた石濱純太郎先生で

あります、私は大阪に参りました当時一人の知友もなく非常に寂しい日を送つてゐましたが、その頃西村天閃先生の主宰される景社に入つて文章の稽古をさせて頂きました、しかしこの景社のお仲間は大抵阪地の碩学のお家ばかりで私など青二才の顔出しするところではなかつたかと思はれてこれも頭痛の種子でありました。ところで西村先生は東京で岡田正之博士から大阪には石濱純太郎といふ前途のある青年があるといふことを聞いて歸られて、先生は三度まで石濱さんのお宅に足をこばれて景社に出るやうにおすゝめになりまして、その熱意に感激して石濱君—先生と申すべきであります、君といつた方が親しみがあつたやうなので君と呼ばして頂きます—も景社に加盟されることになりました。こゝに私は石濱君と相見え、相交ることゝ成りました。石濱君は私よりも年は二つ下でありましたが、學問の廣さにおいても深さにおいても私よりはズットすぐれて居られました、私は心の底で石濱君を兄と思ひ尊敬して居たのであります。さうして石濱君はいつも私を激励し色々な示唆を與へて下さいました。お蔭で私は大阪に楽しんで勉強することができるようになりました。その頃私がかきました二三の論文があります、それらは皆石濱君の示唆によるものであります、私が學問に興味を覺え読書を樂しめるやうになりまして、私は皆石濱君の賜ものであります、私は

深くその恩沢を感謝してゐます、而してその後の永い読書生活におきまして石濱君ほどの幅の廣い深みのある友人否先生を知らないものであります。かうした立派な先生が關係される関西大学東洋文学科の將來は実に洋々たるものと信じます。私はこの意味において関西大学東洋文学科の門出をお祝ひ申し上げたいのであります。

二三月前のある機会において私は鈴木大拙翁の米國からの帰朝談を聞いたことがあります。そのお話の大意は次のやうであります。

私はハワイのホノルルを振出しに米國の各所において講演をいたしました。現在米國の思想を代表するものはプラグマチズムであります。それは非常にすぐれた哲學で尤もすぐれた學說であると米國人は一般に信じて居りますが、また中には時折りこれも既に行きつまつてゐる觀測とする學者もあります。そうしてそれが行きつまつたとすれば、早晚改造されなければならぬと思ひます。さうしてその改造に役立つものは東洋的な考へ方ではない。一体歐米人はすべて物を對立的に考へてこれを比較し判斷するのであるが、東洋的な考へ方は常に対立の前のものを把んでこれによつてすべてを解決しようとするもので、歐米文化の行き詰りを打開するにはこの東洋的な思考方法を取り入れるより外はないと……こんな話をして廻りました。しかしこの東洋的な考は智識ではなく直観であつて歐米人には中々理解されない様であります。しかし歐米文化の行き詰りを打開するにはこれを外にして途はないと私は考へる。かくして歐米文化と東洋の文化が融合するところに歐米の行詰りも打開され、東洋が世界の文化に寄與貢獻することが出来るのであります。

と大体右の様なお話でありました。兎角敗戦日本は一にも二にもアメリカを尊重して東洋を忘れがちであるときに際して、このお話は実に空谷の足音とでもいふべきでありまして、私も東洋の研究に従事するものに取つてはうれしくも又痛快でもあります。

乃で一步ずつで謂ゆる東洋的な思考が果して何であるかを検討しなければならぬ。大拙翁のお話ではそれは支那の佛教恐らくは禪の思考を指すやうに聞かれましたが、私は今少し廣く取つて支那思想全般を考へたいのであります。

支那本來の思想は大別すると儒家思想と道家思想との二派に分れますが、中頃以後印度思想佛教をうけ入れて面目を新にしてゐます。前漢の終り後漢の初め以後支那に流れ込んだ佛教は頗る多様多種にわたりますが、最初支那人は道家即ち老莊の媒介によつて般若の空論に興味をもちました。さうしてそれが隋唐の際に至つて嘉祥大師の三論宗に展開いたしました。然るにその後しばらくすると、三論の空を止揚した天台の實相論が起りました。その後またしばらくすると玄奘三藏が印度から歸つて唯識論を講説しその門人慈恩が唯識宗をうたてましたが、之に対し賢首大師は旧佛教に基き新來の思想を參酌して一心緣起の哲學華嚴宗を建立いたしました。この三論宗と天台宗と唯識宗と華嚴宗との四宗は支那人によつて組織された佛教哲學の最高峰とでもいふべきものであるが、これらは皆佛教の哲學理論で、實際を重んずる支那民族の欲求には副ひかねるものがありました。そこでこの四宗の哲學の上に基礎をおいた實踐の宗教禪と念佛とが發達した。いふところ禪宗には種々の宗派が分れてゐるが、宗密の禪源所詮集都序にはこれを分類してA、B、Cの三宗としこれらの各々は、それぞれ三論、唯識、華嚴の

哲學の基礎の上に立つ實踐方法だと論じてゐる。さうして念佛宗にも亦色々流派があるらしいが尤も廣く行はれたのは天台の背景の上に立つものであるらしい。そこでこれを表記すると

一、三論宗……禪宗A

二、天台宗……念佛宗

三、唯識宗……禪宗B……陽明學

四、華嚴宗……禪宗C……朱子學

と成ります。而して禪宗のCから朱子學、Bから陽明學が起つて居ります。この禪と念佛とは支那化された佛教であり、朱子學と陽明學とは佛教化された儒教であつて、これらの宗教と道德學とは印度思想と支那思想との精華を集めて大成したもので眞に東洋的な思想の代表といふべきものであります。大拙翁の謂ゆる東洋的な考へ方、欧米思想の改革要素はこれらの中に存するかと存じます。

さうしてこれらが欧米思想の展開に貢獻した前例は既に十八世紀頃一度あつたのであります。その狀況は Radcliff の「支那と歐羅巴」に記述せられ、故小柳博士の老莊哲學の附録にもその梗概が紹介されてあるごとくで、今更くどくどく申し述べる要もないと存じますが、たゞ一つ Leibniz, 1646-1716 について一言いたします。彼は十七世紀佛のジェスイト宣教師によつて儒教の存在を知り孔子を尊敬したのであります。彼の孔子は朱子の集釈を通じて理解された孔子で、そこには朱子學の色彩があり華嚴哲學の影響が存してゐます。而して彼の哲學單子論は華嚴の事々無碍の思想と似たものがあると考へられます。果して然りとすれば彼は支那の思想即ち東洋の考へ方を採用して西洋思想を立て直した先覺者で、大拙翁の謂ゆる東洋的な考へ方で欧米思想の行きつまりを打開すると

いふことは、十八世紀に行はれた先蹤を今一度やり直すといふことにならうかと存じます。さうしてこれは吾々東洋學に従事するものの使命であり責任であると考へます。私は新らしく開設せられました関西大学の東洋文學科にかうした使命の遂行を以て任じて頂き度いと存じます。

しかしかうした仕事は高明な人ではじめてできる仕事ですべての人に望むことができないと存じます。之を建築にたとへると多くの人は皆床柱たらんことを意願します。然し學問の殿堂は床の間ばかりで成り立つものでなく、その礎石こそ更に重要な役目を荷ふのであります。従つて眞実に學を好む人はその仕上げよりは基礎工事に力を入れなければなりません。東洋の考へ方で欧米の考へ方を革新する如きはその仕上げ工事で一足飛びにこゝに至ることはできません。私は若き學者達がこの花々しい仕上工事にいそぐことなく着実に基礎を固めて進まれることを切望いたします。

それには何よりも先きに支那の文獻を正しくよみ正確に理解することから初めなければなりません。文獻の正確な理解を得るためには先づ小學に通ずることから初めなければなりません。すべての文獻は文字でかゝれてゐるものでありますから文字に通曉することが何よりも急務であります。この文字に通曉することを小學に通ずると申します。小學とは即ち文字の學問であります。

文字の學問の第一関門は説文の研究であります。段玉裁の説文解字注はこの関門をひらいてくれる鍵であります。段玉裁の後に色々金文や甲骨文の研究が起つて段氏の誤を正しては居りますが、何といつても文字の研究の第一歩は段氏の書を精読することだと思ひます。しかも説文解字は、文字の構造に本づいて文字の

原義を探るものでありますが、文字の意義は時代とともに変化するもので、古來の文獻にあらはれた用例は原義よりも轉化した意義に使はれた場合が多いのであります。そこで書物をよむには原義に拘泥することなくその轉化義を把握しなければならぬ、この轉化義の把握の鍵は婦納であります、同時代の文獻の用例を婦納して正確な轉化義を把握することであり、この方法に尤も卓越したのが高郵王氏の學問であります。

清朝學問の盛んな時代に安徽の高郵に王安國、王念孫、王引之と三代つゞいた學者があらはれました。これを高郵王氏の學と申します、王念孫には説書雜誌といふ名著があり王引之には經義述聞といふ大著があつて、この二書に王氏の學問が備はつて居ります、王引之の墓表銘をかいた龔定庵は王引之自身の言をのべてかう申して居ります、

公曰く、吾が學は外に師を求めず、吾父の訓に本づく。吾が學百家においては未だ治むるに暇あらず、独り經を治む、吾の經を治むる大道においては敢て承けず、独り小學を好む、夫れ三代の語言と今の語言とは燕越の相語るが如きなり、吾は小學を治め吾これが舌人とならんとす。その大端に曰く、小學を以て經を説き、小學を以て經を校するのみ。

これによつて王氏の學問の大体が判ると思ひます。彼は決して抽象的な議論や高遠な理想を説かうとせず只管文字を通して古典をよまうとしたものであります。しかしその文字の研究は段玉裁が行つたやうに説文に本づいて文字の構造や原義を探るのでなく經傳の用例を婦納して尤も適当な解釈を求めようとしたものであります。成る程文字の原義を知ること必要でありませうが、すべての文獻は原義でかゝれてゐるものではない

く寧ろ轉化義に用ゐられた場合が多いのでありまして、適当な轉化義をさがしてゐる方法は、同じ時代同じ種類の文獻から用例を拾つて婦納するより外方法がありません。この方法を尤も忠実に実行したのが高郵王氏の學問であります。

そこで王氏の著述について私の感服した一つの例を話させて頂きます。旧有栖川家に現に高松家に襲藏せられる秋萩帖は小野道風の書だといはれて居りますが、それは五彩の色紙をつぎ合せてかゝれた淮南子兵略訓の裏にかゝれたものでありまして、表の淮南子は道風より更に古い時代の写本恐らく唐代の古写本かと思はれます。そこでこの古写本で現行本淮南子を校合いたしますと、現行本の誤を正し得る点が多いのであります。さうして王念孫の説書雜誌中にも淮南子を訂正して居りますが、その兵略訓に訂正を加へた部分は大体この高松家御所藏の古写本と符合いたして居ります、唯一つ王氏の訂正が間違つてゐるのは現行本淮南子が一行脱してゐる所がありまして、これには流石の王氏も見當がつかなくなつた様であります、他は大がいに王氏の誤正があつて居ります。説書力もこゝまで來ると神業の様に感ぜられます。さうしてか様に正確な判断が下りますのは婦納的研究法によるのであります。

しかしかうした研究法は必ずしも王氏の独壇場ではなく、我國の先儒にもその例を見出すことができます、例へば徂徠先生のごときがその一人であります。私はかつて東京にゐました頃、細川侯から徂徠が數震庵に與へた手紙―徂徠自筆の手紙、実に立派な字でかゝれた手紙―を拜見したことがあります、震庵は孤山の父で肥後熊本藩の學者でありますから、恐らく數家から藩侯に奉つたものでせう。その手紙は多分震庵が

自分の意見をのべて徂徠の教を請うた手紙の返事かと思はれます、徂徠はこの手紙の中に震庵あなたは程朱學を修めた人であるから、程朱の成心を以て古書を見てゐるがそれでは古典の精神は把めない、古典の精神を把まうとすれば先づ古文辭を研究しなければならぬといふ論して居ります。これは大變面白い手紙だと思ひましたので私はうし取つておきました、後に徂徠集を調べますとその第廿四卷に收められて居ります、多少文字の出入はありますが、大体同じであります。さてこゝに古文辭といふことは文章を作る標準として使はれて居りますが、研究法として見ますと、矢張り同じ時代同じ種類の文獻を婦納することに成ります、徂徠の論語徴、辨道、辨名等は皆この古文辭即ち古文を婦納して得られた結論でありまして、高郵王氏の學と一轍に出て居ります。そこで王氏の結論と徂徠の研究とが往々符節を合する様な点があります、試みに一例を申しますと、王引之の經義述聞に「物」の字に「法則」の意があるといふ考証がありますが、徂徠の辨名下にも「物者教之條件也」といふ一項があります、「法則」といひ「教の條件」といつて語を異にしますが畢竟道德法則又は聖人の教條といった意味で同じ結論になります、兩者は各々独自の研究であります、その拾ひあつめた用例も不思議に一致し、その結論も同じでありまして、兩者の研究の正確なことを裏書するものでありませう。さうして有名な大学の「格物致知」の物もこの意味に解して初めてハッキリすると考へられます、格物とは六經をよむことによつて聖人の教條を理解することそれがやがて

學内報

英國王ジョージ六世崩御敬弔

英國王ジョージ六世陛下登遐に當り、本学宮島理事長は大学に名に於て、先帝に對する敬弔の辭を述べ、またエリザベス女王の登祚に對して慶祝の意を、英國駐日大使デニング氏を経て英國國民に述べた。これに應えて同大使より鄭重を極めた感謝狀が寄せられた。

正門竣工

昨夏着工した大学正門は昨年末竣工し大学の玄関を飾るに適わしい近代的な容姿を備えるに至つた。尙同門標の「関西大学」の四文字は中國唐代の書法家顔真卿の大唐西京千福寺多宝塔感応碑文中より集字したものである。

本館隣接教場工事進捗

昨秋起工された法文学部学舎隣接教場二棟の工事は着々進捗、最後の仕上げを余すのみとなつた。

教授出張

◇鈴木祥藏助教授 二月十日奈良學藝大学に於て開催の関西教育学会に出席
◇岡野留次郎學長 二月十二日より十七日まで東京文部省に於て開催の私立大学審議會並びに大学設置審議會總會、及び大学基準協會に於て開催の大学院懇談会

に出席。二月二十五日より二十八日まで大学基準協會に於て開催の同協合理事會並びに評議員會に出席

校友

喜樂會第一回會同

昭和二十六年十月二十六日南地喜樂に於て喜樂會(専門部一部第八回卒)第一回會合を、インド派遣ホッケー選手天野正君の壯行を兼ねて開催し卒業以來十二年振りに旧交を温めた。尙当日の出席者は左の通り

天野正、青木孝夫、植田武夫、上田亮、北原逸美、小寺弘、夢村久壽雄、太田雄村、田中正巳、田中政三、岩崎吉田、高橋博、鈴木良男、西田通男、橋本幹男、岩崎久光、藤井研一、山崎哲英(舊姓赤木)、吉本節

千里山昭八會

昭和二十六年十二月十七日午後四時より道頓堀「中座」に於て觀劇會を兼ねて十二月例會を開催、年末で何かと忙しい時であつたが新顔も殖えて中々盛會であつた。幹事からの報告も懇談事項も簡略に済まして専ら觀劇に心から打寛いだ、松竹新喜劇に抱腹絶倒、時には涙して実に愉快な數刻を持つた。今回は村井支配人の厚意に依る処多く、また山中社長より贈られた雛の生一本が一同に一層の生氣を與えたことも感謝に堪えない、午後八時回會を楽しみに堅き握手を交わして散會した。

当日の出席者左の通り

吉田 一郎 養育克之助 藤本重二郎
中塚 利國 村上嘉一郎 泉 巖
平井 孝道 岩崎 浩 村井 富男
大島 武夫 荒川虎一郎 木下 忠夫
中山 龍一 賀本 敏英 平井 三朗
高橋 新吉 水野 政成 岡沢 卓郎
山尾 義泰

布施市支部市役所同好會

昭和二十六年九月十八日森喬市會議員の斡旋により同市公民館に於て結成を見た布施市支部市役所同好會は、旧臘二十四日小阪松園に於て市政研究會を開催、市政の諸問題について討議研究を行い、活潑な意見の交換があつて午後十時終了した。当日の出席者左の通り

森喬、上田虎雄太、和田一郎、大谷伊作、黒田昭美雄、竹田達郎、水野二良、川澄新一、美坂正利、出谷保、安田久、石田和男

中塚正信氏大阪辯護士會長當選

中塚正信氏(大正二年専門部法科卒)は去る二月二十四日の大阪辯護士會役員選舉の結果、辯護士會長に當選した。

安富敬作氏同副會長當選

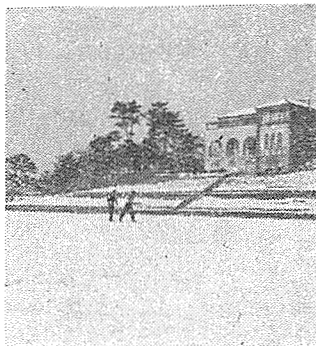
安富敬作氏(昭和七年学部政治科卒)は二月二十四日の選舉の結果、辯護士會副會長に當選した。

訃報

鴨井辰夫氏逝去 毎日新聞社取締役鴨井辰夫氏は予て療養中の処、三月九日逝去せられた。氏は大正十四年本校専門部商科卒業後、今日まで毎日新聞社に勤められ、其間本学文学部新聞學科の創

設に當つては多大の盡力を致され、又常に大学の爲援助を惜しまれなかつた。茲に謹んで哀悼の意を表する次第である。尙同氏に就いては本誌第二四〇号校友の面影の欄に紹介したことがある。

學生



雪の千里山グラウンド

◎スキー部

全日學生スキー選手權試合出場に引続き一月二十五日より神鍋山に於いて近畿スキー選手權並に全関西學生新人戰が舉行され、大阪代表として本学より参加し、全関西學生選手權同様に優勝した、主なる成績は次の通りである。

長距離 一位 上野秀雄 一時間六分
複合前半一位 上野秀雄 五秒二
複合後半一位 上野秀雄 一時間六分
耐久 一位 北林 繁 五〇秒
分四秒 二時間三一

三位 尾上
飛躍 一位 日景信夫 四十六米
二位 竹内
複合 一位 日景信夫 四三・二・点五
二位 鈴木
リレー (尾上、藤本、上野、北林)
一位 一時間五〇分三七秒、
二四K

全関西学生新人戦

距離 (一〇K) 一位 上野 三十一分
二位 鈴木
飛躍 一位 竹内 三十八米
二位 北林 三十八秒一
大回轉 一位 中島

学年試験を終えりと直ぐに又、北海道で開假された第三十回全日スキー選手権大会に参加出場し、三月三日より冬季國体に参加する。

◎アイス・ホッケー部

全日学生氷球選手権を終えりと、引続き第七回冬季國民体育大会に出場、一月二十七日、第二回戦に於いて、実業界の強剛、栃木縣代表古河電氣に次ぐ成績で敗れたが、小島の健闘に一点を報いた。

古河電氣 (栃木) 37
151111
100 1 本学

◎籠球部

二月七日フイリッピンP・A・L籠球チーム來朝を迎え、全関西軍は、神戸王子公園体育館で交戦試合を行つたが、本学から、北野、中井、大東、猿荻、三宅の五人が推選され、O・B新井君が加わり奮戦、前半O・B軍の不調に点差を開けられたが、後半、現役軍 (本学、関西学

院聯合) で、点差を縮め、何回か勝越のチャンスに恵まれながらこれを逸し、白熱戦を展開、タイムアップ六秒前同点となり満場熱況裡に、最後のボールを比軍に奪われ、一ゴールの差で破れたが、大男揃いの中に、小男の北野の活躍は、満場の人氣を博した。殊に彼のドリブルの妙は、日、比兩軍の中にあつても一際、鮮かなものであつた。

◎野球部

春季リーグ戦を控え、学年試験終了後、最速トレーニングに入つた当部は、まだ完全な試合態勢ではないが、東京六大学関西合宿を機に、二月二十九日には、藤井寺球場に於いて、明治大学と、三月二日には、徳島西の丸球場に於いて慶応大学と、それぞれ、オープン戦を行い、何れも打力不調で敗れた。

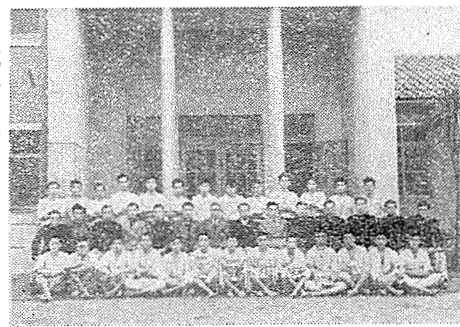
明大 1—0 本学 十回延長
慶大 9—1 本学

小林、新谷の退部に伴い、四、五番の打線の穴が得点力に影響しているのは事実であるが、宇津監督の母堂御不幸のため同監督の熱のある指導が無かつたこともチーム力に響いている、シーズン・インまでには、これら、打線の切れ目も補えることと思われる。

◎空手部

一般スポーツと異なり、理解される機会も少ないが、東西各大学に於ても、相当盛んに対抗試合は行われている。本学に

於ける当部も、戦後復活四年を経た現在関西に於いては無敵を誇つて居り、春秋二回、早大と定期戦を挙行している。近く和歌山大、神外大を迎えて、本年第一回の対外試合を行う予定である、現在部員五十余名を有する大所帯である。



(卒業生を送る空手部員)

◎航空クラブ

本春全國各大学に於いて、空のスポーツとしての、グライダー使用が許されるようになったので、航空クラブ設置の声が高く、関西では既に二三校が發足して居り、本学でも有志が集い、既に会則役員等を決定、新学期より、関西航空学連結の機運もうかがわれ、三月五日、O・Bを加えて、親睦会を兼ね發会式を行うことになつてゐる。

◎二部文藝部

△二部劇作研究部
両部共同で作品募集を行つていたが、一

応締切、近く「関西文藝」第八号を發行する運びになつた、処載は、創作、戯曲詩、コント等、各二、三篇。両部ともに本学々生諸君の文藝に対する関心の薄さを託つてゐる、次年度の飛躍を期待して學友諸君が大いに関心を寄せられるよう熱望している。

△二部映画研究部

三月八日、南区千日前喫茶店オランダ階上に於いて、廿六年度映画批判会及び最近の外画三大作、「夜明け」「ジープの四人」「天井棧敷の人々」の合評会を行つた。

○壹部、貳部學友会各部活動は、学年試験、入学試験、等のため休止せられてゐるが、体育各部は、二月末より、合宿や学内でトレーニングを開始してゐる。

關西大學文學會編輯

國文學 (第六號)

昭和二十七年二月刊行 定價八十円

枕草子本文整理札記：山脇 毅 (一)
夷がきの藝態……… 盛田 嘉徳 (三)
來山の集について……… 飯田 正一 (三三)
西鶴用語小考……… 前田金五郎 (四四)
『好色一代女』の老女のかくれ家……… 眞作 (五五)
淨瑠璃評判記解説 (二) 横山 正 (六六)

發行所 關西大學國文學會
大阪府吹田市千里山關西大學内

イギリス人についての隨想

矢口孝次郎

B君達へ

こんな表題をつけて筆をとり上げてみたが、これはいままさイギリス人の國民性を論議しようなどというのではなく、學報から求められるままに、何か書こうと思つて思いついたまでのことです。私は、何時も君達と開く研究会の後で、時には茶をすすりながら時には酒盃を傾けて、めいめい勝手な放談を試みて過す半日を近頃の樂しみとしていますが、ここに、その折にでも話さうと思つて私の机の周囲から拾つた断片的な話を綴つてみたに過ぎません。

さて一つはイギリスの古本屋の話です。といつても私はまだイギリスへ行つたこともないので、彼の地の古本屋の事情などを話すわけではありません。これは私がふとしたことから戦前十年ばかりの頃知つたプリストルの William George's Sons という古本屋——とつては濟まないほど大規模な古書籍店——のことです。はじめこの書店のことはタイムズのリテラリー・サップルメントか何か

で知つたのですが、或る時カタログを寄せて二三の書物を注文したことが縁となり、その後カタログを毎号欠かさず送つてくれました。私は時に應じて二冊か三冊の注文——それも Prof. Y. Kan-sai Univ. の注文としては先方で頭を傾けるほど安い本ばかりの注文——を出していたに過ぎず、時には一年中にも注文を出さない時もありましたが、それでもカタログは毎号忘れずに送つて来てくれました。ところが No. 445 位の時でしよう。戦争が始まり、図書館などに送られてくる外國雑誌と同じようにそれも中絶してしまいました。さて、その後戦争が終り、私もそのことを忘れてしまつていた或る日、はからずも No. 476 のカタログが送られて來たのです。私は、あそここの書店も無事であつたのだなと嬉びながら、小冊子を厭かず眺めたのです。その頃、私は友人の一人でイギリスの或る学会の Life Member である人が、戦後、同学会から戦時中刊行された雑誌の各号全部を送り届けられたといつて、嬉ぶとともにその誠意に感心している話

を聞いていましたが、私は私で三十枚ばかりのこの小冊子にウイリアム・ジョージ書店の限りない親切を感じたのでした。然し更に感銘したのは表紙に張られてある小さな紙片に書かれた次のような文句でした。"This Catalogue is being sent to our Foreign Customers one month in advance of distribution in England. Kindly send your orders by return." 私はこの言葉を見て、ふといイギリス商人の昔からの徳義としての fair play and equal competition という言葉を思ひ出したのでした。これが一つの言話です。

さてもう一つはアシュリーの名著 The Economic Organisation of England の戦後版 (1949) のことです。この本がイギリス経済史に関する概説の名講義として、單にイギリスのみならず、古くからわが國でも学生や研究者に親しまれてゐることは、君達も御承知の如くです。初版出版の当時、ノールズ女史はこの書を評して「全体を通じて驚くほど暗示的であり激励的であつて、研究の進んだ人達といえども、この書をむさぼり読むことによつて、眼前に経済史上の出來事がありありと描くことが出來よう」といつていますが、この言葉は今でも變りなくあてはまります。ところがこの講義は一九一二年になされたものであり、従つて問

題は第一次大戦前で終つてゐるわけですが。またその後アシュリーも亡くなりました。そこでそれ以後の時代への叙述の拡大が要求されたわけですが、その仕事がその後 G. C. Allen によつてなされたのです。すなわち Allen は一九三五年に、第一次大戦以後の問題をも含めた一章を附加してこの書の第二版を出しましたが、更に今度、それを第二次大戦後までの問題を取扱つた三章に書き改め、この書の第三版 (3rd Ed. with three Supplementary Chapters, 1949) として上梓したのです。事柄はそれだけのことで、すが、このような時代の経過にもかかわらず偉れた概説書について、適切な後継者がそれを常に補足するために新しい章を加えて現代の問題にも役立つように生かしていく、ということは學界としても必要な仕事の一つではないでしょうか。勿論、それは一つにはアシュリーの原著がそれに價するほどの立派な著作であることにもよるでしょうが、それにしてもこのようなじみな仕事を繰返し続けていくところに彼の地の學者氣質の一端がうかがわれるような氣がします。尤もこれに類することは Allen だけに見られるのではなく、例えば最近、コールなどもその著名な著作「イギリス労働階級運動史」の叙述を戦後まで拡大した新刊を上梓して律儀なところを示しています。

(一五頁につき)

趣味の頁

関大歌壇

當麻行

—故人に寄す—

堀正人

春寒き當麻の道をうちむれて行き
しも遠き昔となりぬ
雨雲の去らぬ大和路寒けくにぬか
るむ村も通りぬけにし

古草の枯れ黒みたる百濟野の野づ
かさにして辨當食みぬ

當麻寺山門わきの紅梅に西日さし
しがただ鄙びたり

若き日の心驕りにいにしへの淨土
變をもおほに見にしか

鎌倉の代の螺鈿つめたき須彌壇を
めぐり見にけりなにかさびしく

二上に寒き霞の暝れ行くを背向に
野路をわれらいそぎし

三十年を経ていまひとり來し寺の
櫻は吹雪く葎の中に

関大俳壇

西口百艸選

春蘭を探しに來れば露の臺 中村 枯木

早春の山容日々に親しけれ 大川 双舟

一輪の紅梅咲いて今朝の庭 小林 昶

如月や戦犯の子の帰り來と 和島 陶牛

早春なり池の底より昇るもの 樋口 時風

古稀二つ越したる年の豆をとる 大河内照亭

春寒の息かけて拭く硝子窓 鈴木 路峰

早春の雪に双子の山はあり 小喜多白鷗

ゆるやかに野の小流の暖く 福屋あきら

行く道に早春の海展けたり 梅田 五堂

海の色汲物にして小蛤 柴田 政女

早春の陽は熊笹に分譲地 柴田 芝水

早春の障子をいさる夕日景 岡部 頼三

背戸に見る枯草山や春浅し 奥 光風

早春の樹につき立てゝある利鎌 石渡 燈水

林間の道に早春の星仰ぐ 富永富竹雨

雀蛤になるよな嘘で固めけり 西口 百艸

(五頁よりつづく)

知を致すことに成るのであります。これは徂徠先生の研究が矢張り婦納法によるのでありまして王氏の研究法と一致する一例であります。

私は王氏の研究に推服いたしましたと同時に徂徠の學問に敬意を表します。さうしてかうした婦納法を用ゐて東洋の文獻が研究されることを祝賀いたします。古典をよむには古典の用例を婦納して婦納を求め、朱子の書をよむには朱子の文集語類の用例をあつめてその意義を把握し、元典をよむとは元典の用例を婦納して研究するといふ様な風に東洋の文獻が時代時代の用例を婦納して正確によまれる様に成ることを切望いたします。而して正確にして動かない結論を出しておくことがやがて欧米の文化の行きつまりを打開する資料を提供することに成らうかと思ふのであります。徒らに先走りをして、欧米の思想で東洋の文獻を説明する様な安易な方法を取らず、あくまでも婦納的研究に立脚して不朽の成果をあげられるやう、我が関西大学の東洋文学科に願ひして、その將來を祝福したいと存じます。

最後に私は高野王氏の學に推服すると同時に徂徠の研究法を崇敬いたします。徂徠學は相当廣く行きわたつて居りますが、大阪における徂徠學は藤澤氏四代の學問、東嶽・南岳・黃鶴・黃坡四先生の學問であります。我が関西大学が永らく黃坡先生に教導せられ、又石濱先生によつてうけつがれたことは洵に意義深いものがあります。こゝから立派な東洋文学が発祥することを祈り且つ祝して私の講演を終り度いと存じます。

(名古屋大學教授・文學博士)

海外彙報

ヴィクトル・ユゴーに寄せて

本年二月二十六日はフランスの文豪ヴィクトル・ユゴー（日本ではユーゴーと書くが之は誤りで、Uには長音なく従つてユゴーと記すべきである）の生誕百五十年に當る。さきに一九四五年即ち昭和二十年に其歿後六十年に因んだ催しが極めてさゝやかに東京で行はれたことを記憶してゐるが、本年は一向に之を記念する催しがあつた事を耳にしない。あれだけの大物が日本に於ては比較的大きく取扱はれてゐない様である。殊に近年漸々其傾向が強くなる様に見られる。尤も其名作たる「ミゼラブル」(Les Misérables)、「ノートル・ダム・ド・パリ」、「ルイ・ブラス」、「ロワ・サミューズ」等は映画の輸入に由つて紹介され文豪の名は忘れられてはゐない。ユゴーは詩人であり作家であり画家であり彫刻家であり、更にまた一八五一年ナポレオン三世に由つて國外放逐の難に遭つた程の政府にとっては恐るべき政治家でもあつた。因みに「ミゼラブル」は亡命中イギリスの一小島ガーンセル島に於て脱稿せられたものである。斯

く其何れにも一家を成せるが爲巨偉に過ぎ、研究の対象とされ難いのかも知れぬ。しかし社会劇の作者としてのユゴーを刑事政策の角度から研究した篤学の士もある。詩人は一八八五年五月二十二日歿する少し前に次の如き有名な言葉を遺した。「私は死んだならば五万フランを貧民に寄附する。私は彼等に担がれて墓場に行きたい。と同時に教会からの祈りは一切お断りしたい。但し人々の眞心からの祈りは歓迎する」と。パリ中央部のプラス・ヂ・オージュと言ふ広場にヴィクトル・ユゴー博物館がある。此處は詩人が一八三三年より一八四八年までの間住んでゐた家で一九〇三年に至り其孫に由つてパリに寄附せられ開館されたものであり、館内には其の生涯を通じての諸作品を初め記念品一切が蒐められユゴーを知らうとする者にとつては双となき寶庫である。然るに私の永いパリ滞在中幾多の日本人がパリを訪れあらゆる方面を探索して歩くのを目にしたが此博物館の門を叩く人が極めて寥々たるものであつたといふことは私を少

からず驚き嘆かしたものである。館内の教室を飾つてゐる椅子、机、壁飾等すべてユゴー自らの手に成るものであり、此教室を見ることに由つてもユゴーの偉大にして且つ該博な頭腦の持主であつたことが一目瞭然とするのである。特に此處で一つ紹介したいのは此博物館の中に日本人の筆に成る一枚の絵が存することである。是即ち西園寺公等と同時代に笈を負うてパリに遊んでゐた山本芳水画伯の一筆であり、画面にはパンテオンに送り込まれるユゴーの葬列の模様が描かれてゐる。パリに幾多の博物館があるが、日本画家の作品といふものの殆ど皆無であるにも拘らず此處に此一品が存することは眞に偶然の事と言はねばならぬ。些か話が轉ずるが、山本芳水画伯の話が出た序に今一つ御紹介したいことがある。といふのは、西園寺公が其パリ滞在中に我が國の和歌を佛訳し、これに文豪テオフィル・ゴーチエの息女ジュディット・ゴーチエ (Judith Gautier) が補筆し、更に山本芳水が挿絵を載せた一本のあることである。即ち一八八四年パリに於て出版せられた蜻蛉集 (Poèmes de la Libellule) と称するもの、これである。此書は彼の地に於ても、また我が國に於ても極

めて稀覯に属するものであるが、本を漁る道樂 (Bouquiner) の私は諸所を渉獵した結果、一本を蔵し得て大いに誇らしく思つてゐる。此書は著者西園寺の手許にさへ一本も残つてゐないといふことを公の晩年に友人から聞いたことがあつた。話の飛び序に尙一つ御紹介しておきたいことがある。それはゴーチエ嬢も亦其父に似て相當の文学者であり、日本に於ける狹斜の巷を背景として一戯曲「笑みの商婦」(La Marchande de Sourires) を書き、其扉に西園寺公の献詞を記してゐることである。ゴーチエ嬢をして斯る戯曲を書かしめる素材を與へたのは誰人であるか、當時パリに在つて其辺の消息に通ぜる先輩は其は國公であるとか、光明寺三郎 (フランス公使館書記官) であるとか言つてゐる。其は兎も角此戯曲は一八八八年パリのオデオン座に於て初の脚光を浴びたのである。パリにはテアートル・ナシオナルと言つて國家より補助金を貰つてゐる劇場が四箇所あり、オデオン座は其一つである。さきに蜻蛉集が珍本であると述べたが、此書は更に珍貴のものであり、本書を蔵する者は私以外に日本にないと言つても恐らく遼東の豕の譏は受けまい。(T・M生)

ヴィクトル・ユゴーの日本文献

—生誕百五十年に際して—

天野敬太郎

一九五二年二月二十六日は、フランスの文豪ユゴーの生誕百五十年に当る。ユゴーは一八〇二年二月十六日にゴザンソンに生れた。十七才の時アカデミーの懸賞論文に当選し、二十才で「抒情詩集」を発表して以来、数多くの詩、戯曲、小説、論説等を著わした。

一八五一年のナポレオン三世のクーデターに反対して国外に追放せられ、その後の二十年間も作品や論説の執筆を続けた。一八七〇年普佛戦争のために帝政が崩壊したのでパリに帰り、それから代議士、上院議員に選ばれた。一八八五年五月二十二日八十三才で逝去したが、国葬によつて、パンテオンに葬られた。

ユゴーの作品の我が国への紹介について調べて見ると、明治十七年（一八八四）即ち彼の歿する前年に「自由新聞」に小説「九十二年」の一部分を訳して「革命修羅の衝」と題し、坂崎紫潤が掲載しているが、これが初めてではないかと思う。その翌十八年には、嶺村太郎の「世界の燈」（丁卯堂刊）の中にユゴーの詩がある。明治二十年以後、ユゴーの紹介が盛んとなつた。二十年にはユゴーの傳記書として「愛国偉勳」高橋基一訳の單行書が出た外、「罪の歴史」の訳が單行書と雑誌掲載と二種が出ている。翌二十一年には、初期のユゴーの紹介者として功績ある森田思軒（文蔵）が、初めて雑誌「国民之友」に「随見録」を訳載した。その後、彼が明治三十年死去するまでに「探偵ユーベル」、「ク

ラウド」、「懐旧」、「死刑前の六時間」を訳して、同誌に掲載し、後に單行本となり、又明治四十年刊行の「思軒全集」第一巻に全部収録せられた。

「レ・ミゼラブル」の一部分の訳は諸氏によつて屢々行われたが、有名な黒岩涙香の自由訳である「噫無情」は、初め明治三十五年七月から「萬朝報」に連載せられ、同三十九年に發行せられた。これは大いに版を重ね又、翻刻せられ、盲人用の点字圖書にまでなつてゐる。完訳は、戸川秋骨、豊島與志雄、宮原晃一郎、水野亮の語訳がある。「レ・ミゼラブル」を物語や兒童読物にしたものは数え切れない程にある。「ノールダム・ド・パリ」の尾崎紅葉の翻訳「鐘樓守」は途中病氣のため長田秋濤が補訳して明治三十六年に出了。完訳は、小野浩訳、江間俊雄訳、辻、松下共訳があり、物語の読み物としたものも又数種ある。

ユゴーの邦訳全集は、大正八—九年に冬夏社から十二冊を以て發行したが、その再版は作品の配置順序を変えて大正九—十年に十三冊として發行した。これによつてユゴーの重要作品は殆んど邦訳されたのである。但し、訳文については不満なものもあるであらう。その外の個々の著作については次の邦訳一覽について見られたい。この一覽は、詩、戯曲、小説、論説に大別し、その各々を大体発表の年代順に列べることにした。ここに掲げたものは主要なものであつて、小篇や原書不明の邦訳は割愛した。

一、全集、雜集

ユーゴー全集 十二冊 冬夏社 大八
同 再版 十三冊 冬夏社 大九
ユーゴー小品（森田思軒訳） 民友社 明三
思軒全集 第一巻 堀屋石割書店 明四
ユウゴオ篇 井汲清治訳編 第一書房 昭三
（世界文豪讀本全集） 小林龍雄編 昭三
ユーゴー人生の書

二、詩

Les Orientales (1829)

小野 浩 東方の詩

全集 初版7 大九 再版13

Les Chants du crépuscule (1835)

小野 浩 黄昏の歌

全集 初版7 大九 再版13

Les Voix intérieures (1837)

川路柳虹 内部の声

全集 初版7 大九 再版13

Les Rayons et les ondes (1840)

小野 浩 光と暗

全集 初版7 大九 再版13

Contemplations (1856)

川路柳虹 想願

全集 初版7 大九 再版13

Légende des siècles (1859)

福士幸次郎 世紀の傳説

全集 初版7 大九 再版13

全集 初版7 大九 再版13

Chansons des rues et des bois (1865)

（單行）

全集 初版7 大九 再版13

全集 初版7 大九 再版13

全集 初版7 大九 再版13

小野 浩 街と森の唄

全集 初版7 大九 再版13 大107

(詩集)

小原 無絃 ユーゴーの詩

本郷書院 明三12

加藤 利美 ユーゴー詩集

聚英閣 大11

新城 和一 ユウゴオ詩集三冊

那須書房 昭二9

同 (新潮文庫)

新潮社 昭三9

三、戯曲

Amy Robart (1821)

前田 晃 アミイ・ロブザアト

全集 初版2 大八 再版8 大九12

前田 晃 女王の戀

南天堂 大12

Cronwell (1827)

宮本平九郎 ギクトル・ユウゴオの戯曲論

—[序論の未完訳]—

しがらみ草紙 第二一三三号 明三2

柳田 泉 クロムウエル

全集 初版1 大八 再版7 大九11

Marion Delorme (1829)

神津 直一 マリオン・ドルム

全集 初版1 大八 再版7 大九11

Hernani (1830)

松居 松葉 エルナニ

文藝俱樂部 第 号 明三1

柳沢 健 エルナニ 全集 初版1 大八 再版7 大九11

土井 逸 エルナニ (世界文学全集14

レ・ミゼラブル3の内) 昭三3

岡野かをる エルナニ (世界戯曲全集32

の内) 昭四6

Le Roi s'amuse (1832)

早川 善吉 王者の悦樂

全集 初版2 大八 再版8 大九12

Lucrèce Borgia (1833)

福士幸次郎 ルクレツツア・ボルヂア

全集 初版2 大八 再版8 大九12

Marie Tudor (1833)

平林初之輔 マリー・チユードル

全集 初版1 大八 再版7 大九11

Angelo (1835)



愛孫を抱けるヴィクトル・ユゴー

岡村 千秋 アンゼロ

全集 初版2 大八 再版8 大九12

Ruy Blas (1838)

中村 星湖 ルイ・ブラス

全集 初版2 大八 再版8 大九12

岡野かをる ルイ・ブラス

(古典劇大系9の内) 大12

高野 彌一 (世界戯曲全集32の内) 昭四6

ルイ・ブラス (ユーゴー集の内)

中央出版社 昭四3

ジャン・コクトオ脚色 森芳介訳

ルイ・ブラス

一燈書房 昭三4

Bhêâtre en liberté (1842)

福士幸次郎 城主

全集 初版2 大八 再版8 大九12

Torquemada

廣瀬 哲士 トルクマダ

全集 初版1 大八 再版7 大九11

Burgraves

川路 柳虹 自由劇

全集 初版2 大八 再版8 大九12

川路 柳虹 王と漂浪者

Les Jumeaux (遺稿)

宮原晃一郎 ふたご

全集 初版2 大八 再版7 大九11

四、小説

Han d'Islande (1823)

早川 善吾 氷島のハン

全集 初版10 大九 再版3 大九7

Bug-Jargal (1825)

森田 思軒 懷旧

(單行) 国民之友 第二三三三三号 明三1

同 (單行) 民友社 明三12

同 (思軒全集第一卷の内) 明三5

古館清太郎 バグ・ジャルガル

全集 初版10 大九 再版5 大九9

(單行) 冬夏社 大10

新庄 嘉章 悲戀—ビュグ・ジャル

宮原晃一郎 海の労働者 新小説 第 号 明三2

同 全集 初版12 大九 再版6 大九10
同 (單行) 冬夏社 大10
秦野 楊吉 海の勇者 課外読物刊行会 大104
和田顯太郎 海の労働者 二冊 大104
(世界名作文庫) 春陽堂 昭八

L'Homme qui rit (1869)

宮原晃一郎 笑ふ人 全集 初版11 大八 再版4 大九8
同 (單行) 冬夏社 大105

Quatre-vingt-treize (1873)

坂崎紫潤 革命修羅の衝 自由新聞 第 号 明七
無署名 佛蘭西夜の月 自由燈 第 号 明六
卯の花庵 九十二年 文藝俱樂部 第 号 明三4
宮原晃一郎 九十二年 全集 初版10 大九 再版6 大九10
(單行) 冬夏社 大10

早坂 二郎 九十二年 (世界大衆文学全集17) 改造社 大10
同 (世界大衆文学名作選集18) 改造社 大10
今日出版 九十二年 国立書院 昭三11

五、論 說

Napoléon le Petit (1852)

本間 武彦 小ナポレオン 全集 初版5 大九 再版10 大102

Shakespeare (1864)

本間 武彦 シェクスピア 全集 初版3 大八 再版12 大106

L'Exile (18)

神津 直一 追放 二冊 全集 初版45 大九 再版910 大101

Histoire d'un crime (1877)

野田藤吉郎 五日英雄之肝膽 上巻 二書房 明10
紀要 英雄之肝膽 上巻 二書房 明10

眉嶺 山樵(井上勤) 名士政界之暴風 文學之花 第 号 明10

虛実亭主人 罪人の歴史 人民 第 号 明10
小野 浩 罪の歴史 全集 初版6 大八 再版11 大104

Choses vues (1887)

森田 思軒 ユーゴー隨見錄 國民之友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 森田 思軒 探偵ユーベル 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

同 同 同 國民の友 第三一三號 明10
同 (ユーゴー小品の内) 明106
同 (思軒全集第一卷の内) 明105

六、評 傳

ユーゴーの評傳については、邦人の大著はまだ出ていない。單行書は翻訳と合して四、五種あるに過ぎない。昭和十年(一九三三)はユーゴー逝去後五十年になるので、太宰施門、土井晩翠、堀口大学、吉江喬松(吉江

喬松全集第五卷に收録)、辰野隆(あらかると、續忘れ得ぬ人々、佛蘭西文学上巻に收録)、その他の諸氏の論文や記念講演があつた。次にユーゴーに関する主要な評傳を拾つて掲げて置く。

單 行 書

高橋基一訳 愛国偉勳 東涯堂 明10
人見太一郎著 ユーゴー(十二文豪9) 民友社 明105

星野久成編 ヴキクトル・ユウゴー 東京通信学院 明107
レオポルド・マビヨオ著、神部孝訳 ヴィクトル・ユウゴー 新潮社 昭二

同著 同訳 ユゴオ傳(新潮文庫) 新潮社 昭二
雑誌及び図書に掲載 大日本国民中学會編 近世十傑 明103

大日本国民協會編 近世泰西英傑傳 第二卷 大日本国民協會 明101
桂田 金造 不朽の生命(ユーゴー) 大33

新城 和一 ヴィクトル・ユウゴオの根本思想 「ゆかり」の内 大10
福永 煥 名著「追放」に現はれたユーゴーの雄弁 雄弁第三卷九号 昭四9

豊島與志雄 ギクトル・ユウゴー (世界文学講座5の内) 昭四12
木村 毅 ユーゴーと板垣の會見 雄弁第三卷10号 昭七10

太宰 施門 ユーゴー叢書 經濟往來 第10巻1号 昭107
土井 晩翠 ユーゴーを讀す「詩」 經濟往來 第10巻1号 昭108

柳田 泉 ユーゴーの日本に及ぼせる影響 (明治文学の内) 昭二8
小笠原 武 ハイネ的なものとユーゴー的なもの 麵麴 第五卷10号 昭二10

(大學図書館調査主任)

(八頁よりつづく)

更に一つの話は雑誌に関するものです。君達も痛感されているように、どうしても欧米の学界の研究を消化しなければならぬわけであり、戦争によつて十年間も外国文献の輸入が杜絶したことは遺憾なことでした。然しそれも昨年あたりから漸次入手出来るようになりわれわれの渴を癒してくれています。ところで、これは戦後手にした雑誌の一つ「Economic Journal」を見て感じたのですが、學術雑誌などでも戦前と戦後とで外装の一変した中で——特に日本などと比べて——この雑誌の外装はまた何という変りなきでしよう。戦前といわず、七十年來寸分変らずそのままです。四角の中に蜜蜂が羽を拡げた例のマークもそのままです。I. Articles, II. Reviews, III. Notes and Memoranda, IV. Recent Periodical and New Books という編輯方式もまた出版所も変らず、更に周知の Patron-His Majesty The King も同じことです。といつて内容のことは全く別です。それが常に權威ある諸學者の新しい研究によつて満され、世界の学界の注視の的であることは今更いまでもありません。ところで、このようなことは、何もこの雑誌だけに見られることではなく、欧米には他にいくらでもその例はある、といえはそれまでですが、この雑誌がイギリスの雑誌であり、然も經濟

學關係の雑誌の中の代表的なものであるだけに、特に興味を惹いたわけですが。この雑誌をみると、門構えも間取りも昔ながらの屋敷の中にありながら、何代もの子孫がそれにこだわらず、次々に新しい時代の現実に即して生活そのものを改めてゆく、というやり方を連想します。また産業諸部門の國有化や進歩的な社會保障制度の採用に見られるような著しく革新的な政策が行われながら、他方にはおそらく封建時代以來の幾多の制度や儀式がそのまま残存している——つまり現実の生活の發展を阻止するものでない限り、形式は古いものでもそのままにしておいて氣にしないという氣質。この点は御承知のようにしばしば説かれているところですが、この雑誌を見て、同じことを感じたのでした。

さて他にも話は二三ありますが、紙面が限られているので今日はこれで筆を擱きましよう。どうもイギリス人に感心した話ばかりになりましたが、これは「わが佛草」の御説教ではなく、研究会には何時もイギリスのことが中心になるので、それと結び付いた話題を机の周囲から拾つてみたまでのことです。また次の会合の折の君達の放談を楽しみにしています。(二・六)

(經濟學部教授・經濟學博士)

【編輯後記】

◇大学としては近來にない多事多端な年度であつたが、然し千里山の丘上には大学院研究室大学ホールを初めとして、次々と踵を接して工事が起され、夫々順調に捗り、新たな建築が次から次へと私たちの眼前に登場して來るのを見てゐるとは愉しく心強いものである。本誌もまだ不備な点は多々あるが、伸び行く大学に随つて其姿を出來得る限り写し取つて來、無事復刊第二年度を終り得たことは、學内各位の御援助に依ることは言ふを俟たないが、編輯者として慶びに堪へない。

◇賛否両者夫々に尤もな意見はあらうが、最近大いに世論を喚起してゐる漢文科の復活如何の問題は、兎も角私たちが日本人が文化の歴史に於て多大の恩恵を蒙つて來た中國と無縁になり得ない事が炳乎たる以上、唯諾して歐米文化のみを尊しと爲し、複雑繁雜を避けて簡便実利に奔るべきではない。本年度初に本學が東洋文學科を創設した事は日本の大學としては當然の事ではあるが、大いなる意義を有するものである。この事に更に深く思ひを致して頂く爲に、漢文學の著者武内博士の玉稿を頂戴して掲げた次第である。

◇去る二月二十六日は佛文豪ヴィクトル・ユゴー生誕百五十年に際会するので、これを記念してT・M氏と天野氏とよりユゴーに因んだ一文を頂いた。

◇矢口教授からはイギリス商人の紳士道に就いての興味ある挿話を頂くことが出

來た。

◇一月号に於て本誌購読者諸兄に新年度購読費御送金を依頼して振替用紙同封致しました。が、今号重ねて振替用紙同封致すべく早く御送金願います。金額三百円。

前號訂正

三頁第二段十八行目「此程文獻を」「此種文獻」に、同第三段二行目「Renard」を「Renard」に、同四行目「Courants」を「Courants」に、同五行目「Corn」を「Corn」に、同十四行目「Theorique」を「Theorique」に、四頁第二段末尾「Cott」を「Cott」に、同第三段二行目「Aedarride」を「Bedarride」に、五頁第三段二十五行目「fabrication」を「obligation」に、八頁第三段第二十三行目「on à la mesure」を「on à la mesure」に十一頁第三段二行目「辭世を殘して切腹た」を「辭世を殘して切腹した」に、同十八行目「邦蘇教に帰依し」を「耶蘇教に帰依し」に、十五頁第三段十四行目「コギト」を「辻馬車」に夫々訂正いたします。(編輯部)

關西大學學報

第二四七号 復刊一七号

定價三十円(送料四円)

一年誌代實費三〇〇円(送料共)

昭和二十七年三月十日印刷

昭和二十七年三月十五日發行

大阪府大淀區長柄中通二丁目

編輯人 中 村 浩

發行所 大阪府北區川崎町七

印刷者 西 井 幾 藏

印刷所 株式 合社 ナニワ印刷所

大阪府大淀區長柄中通二丁目

發行所 關西大學學報局

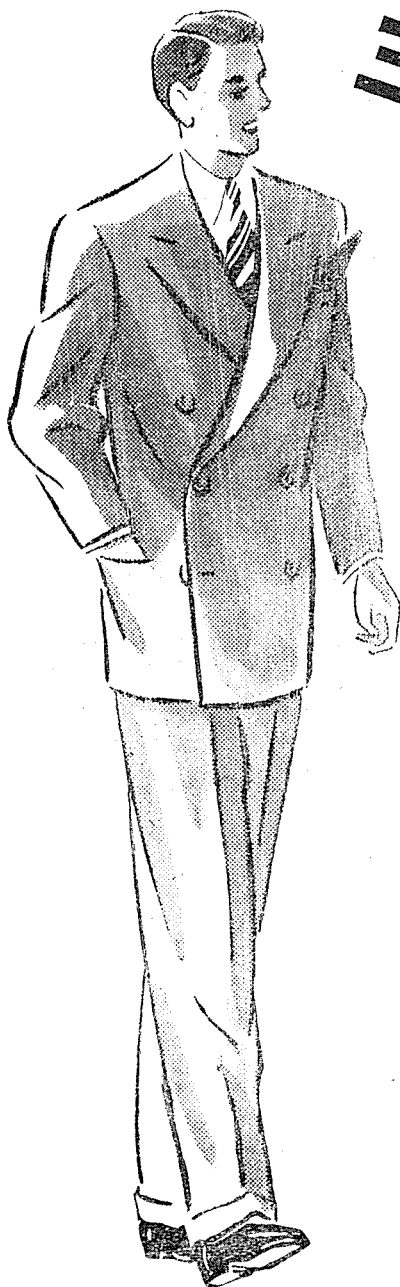
電話堀川(36)一七五六番

振替大阪(二六)七二六番

御就職用に……

三越の洋服

(2階)



春の紳士服…今春のモードカラーは明るい茶系統を主流にグレー、薄紺等、生地はサキソニー、ウーステッド、フラノ、ホームスパン等、型は先年のニュートリムスタイルが更に衿巾がせまめられ、衿丈は長目に袖上は太く、ズボンは長目、裾は細目になっております。三越の洋服部では「英國風の上品で溢い應揚さ、アメリカンスタイルの軽快なスマートさ、フランス好みの小粋さ」など夫々の美點をとり入れ最も洗練された独自のニュースタイルを研究準備し、熟練したカッター陣と技術を誇る優秀縫製工場をもちまして皆様の御用命をお待ちいたしております

御通勤用には

スマートでお丈夫な

ビジネスウエアを!

背廣三つ揃純毛紺サージ………	12,400円
〃 〃 ヘリンボン………	11,800円
合オーバー純毛ギヤバジン………	11,700円
〃 〃 ツイード………	10,500円

圖書・文具
めがね・時計 (4階)



大 三越 高麗橋
阪

(電話 北濱 (23) 851・1353・1551) 日曜營業・金曜定休